

令和7年度 学校評価に係る学校関係者による評価について

本校は大田区の東部に位置する羽田と東靴谷の2つの地域を校区に抱え、通常学級7学級と特別支援学級2学級の生徒212名が通学している。どちらの地域も町会、自治会のみならず、生徒は地域行事への参加や協力を通して、郷土愛を深め自尊感情を高めている。学校経営の基本方針は「豊かな心と主体性を育む教育の推進」「学力向上・体力向上のための取組の推進」「地域と共に子どもを育てる教育の推進」の三本柱であり、外部の人材を積極的に活用し、基礎学力の向上や体力運動能力の向上に向けての取組を推進している。学習面や生活面の課題も多いが、校区の小学校と連携し、改善に向けての努力をしている。特別支援学級は持久走と和楽器の演奏に力を入れ、生徒を積極的に校外に出すことにより、自信をつけさせている。校長の掲げるスローガン「一人一人が自分の夢を実現させるために日々努力し続けている学校」のもと、教職員、保護者、地域が連携し、生徒の「豊かな心」「あきらめずに努力する姿勢」「他と協調し最善をつくす実践力」を伸ばす取組を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄					
								評価 (人数)	コメント				
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未成 来し社 会を創 造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: A 80%以上 B 70%以上 C	3	保護者アンケートで「将来のために必要な力を育てている」と回答した保護者の割合	A (4名)	・毎月の学校だより等から、羽田中がめざしていることは明確に伝わっている。学校行事や校則等に対し、生徒がしっかり考えて決めていくことができる態勢を取っており、自治、自律ができるように取り組んでいることが分かる。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							B (6名)	・保護者の事より生徒の事を考えてもらえれば!!(保護者と生徒の割合を同等になるように)		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									C	・様々な教科でICTの活用が進み、たくさんの情報に触れる機会が多くなった分、間違った情報や危ない情報に気づくことができるよう、メディアリテラシー教育にも積極的に取り組んで欲しいです。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る材国 を際育 成市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成していきます。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4: A 80%以上 B 80%以上	3	保護者アンケートで「チームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸ばしようにしている」と回答した保護者の割合	A (7名)	・外国語指導員を活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。指導員の持ち味を生かし、外国語によるコミュニケーションの楽しさを実感させた。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							B (3名)	・ALTの協力で楽しみながら英語を学習している様子が見られました。英語部の活動内容も充実した内容となりました。次年度からのOGCルームを利用した授業にも期待したいです。		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									C	・TGGや英語での日直活動等、自主的というよりは強制的な部分もあるが、英語にふれる、ふれさせる活動をしていかないと英語を避ける子もいるので、大変ありがたい。OGCルームを使ってどのように取り組んでいくのが、今後が楽しみです。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
た一個 め人別 の目基 と標 礎り3 とが個 なる性 力と能 育力成 ををし 発揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: A 90%以上 B 80%以上	3	保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」と回答した保護者の割合	A (3名)	・組織的に生活指導に取り組むことができた。ほぼすべての生徒が争論で登校し、自然に規律を守る状態となっている。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							B (7名)	・ゆれ動く年頃、悩み多き年頃の生徒をチーム(組織)で支え、指導している。サポートルーム以外に別室「とまり木」は安心の居場所となっていることが良い特性は誰にもあるので、小学校との情報共有や学年・全体での共通理解のもと指導をすすめてくれている		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									C	・わかりやすい授業のための工夫・少人数指導「とまり木」での対応等、一人ひとりに寄り添った指導をしていただき感謝します
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る材国 を際育 成市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成していきます。	②我が国や郷土の伝統文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	3: A 60%以上 B 60%以上	3	保護者アンケートで「先生は健康な生活を送るための指導をしている」と回答した生徒の割合	B (7名)	・授業改善プランは全教員が関わり作成している。全教員がおおむね授業に生かすことができていると回答している。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							C	・「チームティーチング、少人数指導、補習教室などを実施し、生徒一人ひとりの学力を伸ばしようにしている」と回答した保護者の割合は、79.4%であった。また、生徒の回答は79.1%であった。いずれも、「よくわからない」を除くと80%近い数字であり高い評価を得ていると考える。		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									D	・OGCルームを活用し、英語力の向上を期待する。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										
た一個 め人別 の目基 と標 礎り3 とが個 なる性 力と能 育力成 ををし 発揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4: A 40%未満 B 40%未満	3	保護者アンケートで「元気に登校し、楽しい学校生活を送っていた」と回答した保護者の割合	A (3名)	・運動量を確保しながらも、男女混合授業において、運動の楽しさ、技術の向上を図る授業に取り組んでいる。				
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。							B (7名)	・「どのようないくつか知っている」58.7%、もう少しあってほしい。70%くらい		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。									C	・「どのようないくつか知っている」58.7%、もう少しあってほしい。70%くらい
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										

<p>学 校 別 力 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>2</p>	<p>4: A 80% 以上 B 90% 以上</p>	<p>3</p>	<p>A (4名)</p> <p>B (6名)</p> <p>C (1名)</p> <p>D</p> <p>・基礎学力に課題のある子が多くいますので、「分かりやすく」「わかった、できた」を大事にしてくれたらと思います。授業は集中して取り組んでいる様子が見られたので、考える時間や振り返る時間をとり、真の理解につなげてください。</p> <p>・具体的な先生方が取り組まれている研修内容を知りたいです。教員一人だけ抱えることなく、学年チームでの対応や学校チームでの協働の様子が見られました。</p> <p>・学期一回の学校公開の時の授業の様子しか見ていないので、その時の授業の内容にもよりますが、もっと楽しくてもいいんじゃないかと思えます。笑いのある授業という意味ではなく教科の楽しさが伝わる授業を見たいなと思えます。わかりやすい授業なんですけどつまらないなと感じてしまうのも事実です。</p> <p>・個別最適な学びと協働的な学びに向けた授業改善が必要と感じた。</p> <p>・授業内容をよく見ていないのであまり答えられませんが、学校公開で見る限りみんなまじめに授業を受けていると感じた。</p>
<p>た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き と 生 き る</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4: A 80% 以上 B 1% 低下</p>	<p>2</p>	<p>A (7名)</p> <p>B (3名)</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・特別支援への理解が深まり、生徒の特性に応じた指導も進んでいる。</p> <p>・支援委員会を週1回定期的に行い、不登校・いじめのチーム支援をした。また、その背景である特別支援の指導をすすめることができた。個々の特性に応じた支援がすすみ、SRIに入級する生徒が増えた。</p> <p>・いじめへの対応も向上しており、安心安全な教育環境がとられている。</p> <p>・「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と回答した保護者の割合は58.7%であり、「わからない・無回答」を除いた回答の中で肯定的回答の割合は非常に高くなった。今年度も、学校での取組が保護者から見える状態となり保護者からは評価されている。しかし、不登校生徒は、未だ5%を超える状況であり、予防的な指導がさらに必要とされる。</p> <p>・生徒アンケートでの「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」に肯定的に回答した生徒の割合は75.2%であり、学校の取組が表れていると思われる。</p> <p>・メンタル面での課題を持つ生徒への対応のための個別ケース会議を多く行った。学年・SC・SR・部活動などの連携により、課題が改善した事例が生じた。</p> <p>・不登校は、中学で始まったことはないことも多く、根深いと思えますが、特性理解、家庭との密な連携など改善、対応されていると聞いています。ていねいに一人ひとりをみてくれ、生徒が楽しく過ごしている話を聞くとうれしいです。</p> <p>・合理的配慮の提供の申請等、寄り添っていい対応に感謝します。SRでの指導と学級との授業との連携を進め、個別最適化した学びができるようお願いします。</p> <p>・一人一人に合わせてよく動いていただいていると思います。様々なケースの子供がいる中で、学年だけでなくカウンセラーやサポーターとも連携がとれているのは、素晴らしいことだと思います。</p> <p>・特別支援への理解が深まったのはどのような指導があったのか知りたい。SRIに入級する生徒が増えて良かった。いじめへの対応の向上、良かったと思う。具体的な対応を知りたい。</p>
<p>安 柔 個 心 軟 か な で 目 創 標 育 造 6 環 的 境 な を 学 っ 習 く 空 間 ま す 安 全</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境を整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4: A 90% 以上 B 70% 以上</p>	<p>3</p>	<p>A (7名)</p> <p>B (3名)</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・ホームページは、ICTサポーターや経営支援部を活用し、定期的に更新することができた。</p> <p>・体育祭、文化祭、学校公開など、多くの保護者が参観できるようにしている。</p> <p>・ボランティアは、参加する生徒数が少なかった。意義・必要性などを次年度以降、再度指導して必要がある。</p> <p>・学校公開や学校行事は、案内がキチンとされ、生徒の頑張りが参観できるようにしている。ボランティアを募る事は人数だけでなく生徒のやる気や心意気を感じられてよい。</p> <p>・この子もあの子も羽中の子として一体感を出せればいいと思います。</p> <p>・西門の開放での不審者の侵入等を少し危惧しています。羽中SONAE DAYでの取り組み等引き続き、地域との連携を進めて、生徒たちが、学校の安全・安心、地域の安全・安心を考えられるように指導をお願いします。</p> <p>・ボランティア活動の内容が裾谷地区のものだと羽田の子が？羽田地区のものだと裾谷の子が？な部分がある(内容的に)詳細を記載しても、読まない子も多い</p>
<p>学 地 学 校 校 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>4: A 70% 以上 B 70% 以上</p>	<p>3</p>	<p>A (7名)</p> <p>B (3名)</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・学校運営協議会を定期的に開き、情報を共有している。今年度は、臨時学校運営協議会も行った。</p> <p>・学校支援地域本部とは密接な連携がとれている。学習指導、マナー教室、羽中防災デイ、グローバルコミュニケーション・コンディショニングなど多くの事業を実施できた。</p> <p>・いじめの授業・防災の取り組み、TGGの引率、企画や運営、広報など取組がよくわかり生徒のためになっている</p> <p>・いろんな課題があるが「報・連・相」を大事にしてみたいと思う</p> <p>・まだまだ連携をとっていくことは可能だと思う。子供からこんなことをしてみたい、こんなことをしてみたいという案を地域・PTAとともにかたちにすることができたらとても素敵だと思う。おたの未来づくり、教科実施へ向けて、学校から、子供から外部(地域・PTA)へ発信してくれるとありがたいです。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。  
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。  
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記